

育苗ポットの培地温を下げる 暑い夏でもイチゴの花芽分化を遅らせない！

野菜育担当 宗方淳

近年は残暑が厳しく、9月以降も猛暑日となる年も珍しくありません。イチゴにおいては、特に秋口の高温による花芽分化の遅れと定植時期の後退、それに伴う年内収量の低下が問題になっています。

高温対策資材の一つとして、気化熱による培地温度の低下を期待した育苗ポットがあり、花芽前進紙製ポット(ペーパークラフト(株))や空中ポットレストレー(阪中緑化資材(株))等が販売されています。今年度、これらの資材を用いて本県育成品種「埼園い3号(あまりん[®])」と「彩6号(べにたま[®])」を育苗し、培地温と花芽分化への影響を調査しました。

試験の結果、気化熱利用ポットの日平均培地温は、黒ポリポットよりも約2°C低くなりました(図1)。また、花芽分化も黒ポリポットより早まる傾向が見られ、「埼園い3号」よりも「彩6号」の方が育苗資材の違いによる花芽分化度の差は大きくなりました(表1)。昨年のような9月中旬まで高温傾向が続く気象条件では、早生品種である「彩6号」の方がより培地温低下の効果を得やすいことが分かりました。

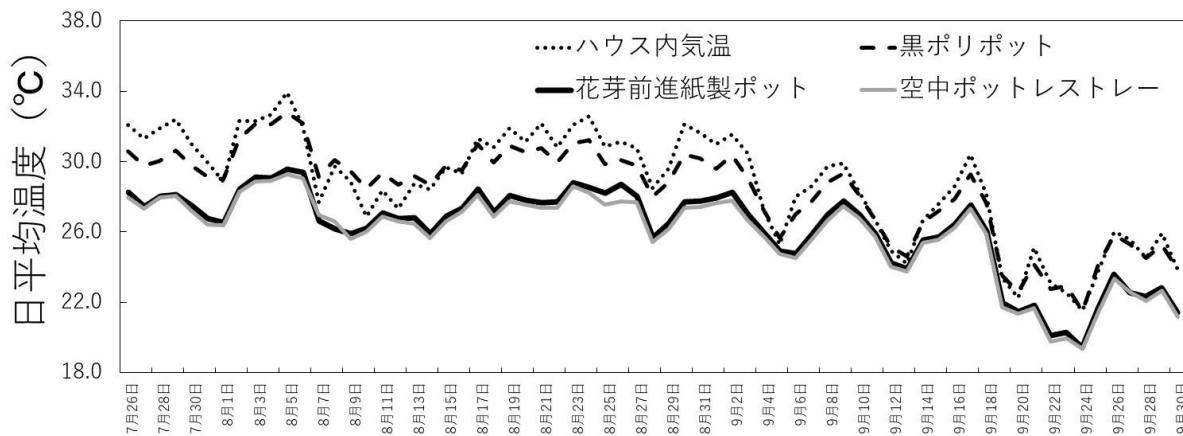


図1 ハウス内気温と各育苗資材の培地温度の推移(2025年)

表1 育苗資材による花芽分化状況の比較(2025年)

品種	育苗資材	花芽分化状況			
		検鏡1回目	花芽分化度	検鏡2回目	花芽分化度
埼園い3号	黒ポリポット	××△△△△	16.7	△○●●●●	83.3
	花芽前進紙製ポット	△△△△○○	33.3	○○●●●●	91.7
	空中ポットレストレー	△△△△△△	25.0	○○●●●●	91.7
彩6号	黒ポリポット	×××××△	4.2	○○○●●●	75.0
	花芽前進紙製ポット	△△△○○○	45.8	●●●●●●	100.0
	空中ポットレストレー	△△△○○●	50.0	●●●●●●	100.0

注1) 花芽検鏡について、埼園い3号は9月22日と10月2日、彩6号は9月16日と9月25日に各6株ずつ供試した。

注2) 未分化: ×、肥厚期: △、二分期: ○、花房分化期: ○、がく片形成期以後: ●を示す。

注3) 花芽分化度は以下の式により算出した。

$$\text{花芽分化度} = \frac{(n_1 \times 0) + (n_2 \times 1) + (n_3 \times 2) + (n_4 \times 3) + (n_5 \times 4)}{N \times 4} \times 100$$

(N=総観察数、n1=「未分化」数、n2=「肥厚期」数、n3=「二分期」数、n4=「花房分化期」数、n5=「ガク片形成期以後」数)